

■知的障害のある子どもたちへの実践事例

都立水元特別支援学校での「国語」の授業での活用の一例

東京都立水元特別支援学校

河野 聡美

はじめに

本校は、知的障害のある小学部1年から中学部3年までの児童・生徒が在籍する特別支援学校です。昨年度からマルチメディアDAISY図書を学習や日常生活の場面で導入しはじめました。今年度より、マルチメディアDAISY図書をダウンロードしたiPadを2台導入することができ、活用の幅が少しずつ広がってきています。今年度は、小学部3年生の国語の学習「やおやで おかいもの」での活用例を紹介します。

活用実態と様子や効果

(1) 子どもの実態

知的障害のある小学部3年生の6人で構成された学習グループです。自閉症やダウン症など、さまざまな実態の子どもたちが在籍しています。簡単なストーリー展開のお話を楽しむことができ、特に、繰り返しのフレーズやテンポのよい言葉の出てくるお話が人気です。『パパンがパン』や『うしろに いるのだあれ』『とんとんとん』などのタイトルがよくリクエストされます。

(2) 取り組み内容と実態

本校では、朝学習や、授業での読み聞かせの場面、休み時間などでマルチメディアDAISY図書を使用しています。その中でも今年度は、「国語」の授業「やおやで おかいもの」という単元での活用について紹介します。使用した機材は、マルチメディアDAISY図書をダウンロードしたiPadと大型ディスプレイ、ケーブル類です。

①単元づくりにあたっての設定理由

本学習グループでは、これまで各単元の学習ごとに、学習で出てきた言葉のひらがなを「発声する」「復唱する」「読む」「なぞる」などの個別課題に継続的に取り組んできました。学習を繰り返していく中で、ひらがなに興味が出てきたようで、指をさして読み方を教員に聞いたり、文字数に合わせて発声をしたり、拾い読みをしたりする様子が見られるようになってきました。

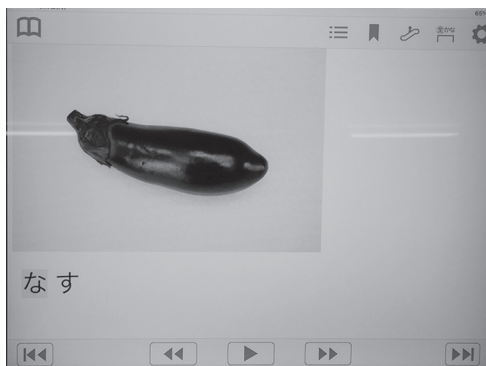
しかし、ひらがなの文字や音声と、具体物や写真を一致させることの理解が課題となっていました。そこで、わ

いわい文庫に入っている『やおやさん』『やおやでおかいもの』の2つの絵本を活用し、読み聞かせに合わせて学習活動を展開させていく単元をつくりました。

この2つの絵本は、読み聞かせでも人気のタイトルでした。また、登場する野菜が給食の献立に出てくるものも多く、子どもたちにとって身近な物でした。

マルチメディアDAISY図書の特徴でもある読み上げ機能やハイライト機能を活かし、ひらがなの発音や、文字数に合わせた発声を促していくことをねらいました。

また、絵本のページが大型ディスプレイに表示されるので、写真を見ながらひらがなと一致させていくことで、理解を深めていくことができるのではないかと考えました。これまでの単元でも、学習の導入などで、マルチメディアDAISY図書による読書活動を行ってきたので、子どもたちにとっても慣れ親しんだ読書ツールとなっていた点も設定理由の1つとなりました。



②単元のねらいと学習の流れ

単元名は「やおやで おかいもの」です。子どもたちが言いやすく、見通しをもちやすいようにということで、本のタイトルと同じものにしました。

単元のねらいは、以下の3つです。

- ①ひらがなを読んだり、聞いたりして、物の名称を理解することができる。(知識及び技能)
- ②野菜の名称を理解し、発声や発語で表現することができる。(思考力、判断力、表現力など)
- ③絵本の内容を理解して、自発的にひらがなを読んだり、絵カードを選んだりすることができる。(学びに向かう力、人間性など)

学習の流れは、『やおやさん』の絵本を導入として読み聞かせをしながら、野菜の名称やひらがなの読みを確認します。その際に、マルチメディアDAISY図書の読み上げ機能と同時に、教員の声でも発声の手本を示したり、

子どもたちの注目を促すために、絵本の野菜をカードにしたものを子どもの近くで提示したりしました。

つぎに、メインの学習活動となる『やおやでおいもの』の絵本の展開に合わせた、八百屋さんとお客さんに分かれた八百屋さんごっこ遊び的活動です。子どもが「やおやのおじさん」役になり、教員が「お客の女の子」役になって行いました。子どもは、自分の机の上に置かれたカード立てから、絵本の展開に合わせて正しい野菜のカードを選び、教員の持っているかごに入っていきます。役に分かれて、「いらっしゃい」「ありがとうございました」などのやり取りもしながら活動を進めていきました。野菜のカードをかごに入れる時に、ひらがなを自分で読んだり、教員と一緒に読んだり、教員の発音の模倣をしたり、教員の発音に合わせて文字数を意識して発声をしたりと、実態に合わせて発声や発語で野菜の名称を表現する課題を設定しました。この活動では、「声に出す」ということをたくさん取り入れました。

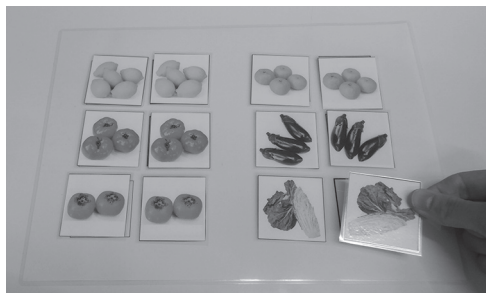
集団での学習活動の後に、個別学習の時間を設定しました。『やおやでおいもの』の絵本に出てきた野菜の写真のマッチング課題や、写真とひらがなのマッチング課題、野菜の名称のひらがなのなぞり課題などに取り組みます。子どもの実態に合わせて課題を工

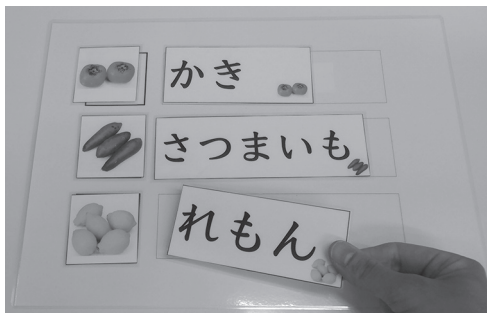
夫し、集団での活動で学んだことの振り返りを行うことができるようにしました。

③教材の工夫について

子どもの机の上に配置した野菜のカードは、子どもたちの実態に合わせて準備しました。写真がメインのもの、写真のヒントを見てひらがなを意識することができるもの、ひらがなのみで表示されたものの3種類です。単元を進めていく中で、使用するカードを変更した子どももいました。また、カードを選びやすいように、自作のカード立てを使用しました。ほどよい角材に溝を掘ったものです。

個別課題で使用したマッチング課題も同様に、実態や習熟度に合わせて複数パターン準備をしました。また、取り外し可能な布テープを使用し、組み合わせを変えることができるようにしました。繰り返しさまざまなパターンで課題に取り組むことで、理解を深めていくことができるよう工夫しました。





④子どもたちの様子

身近な絵本の内容に合わせた学習活動ということもあってか、興味をもって意欲的に取り組む子どもが多くみられました。マルチメディアDAISY図書の音声読み上げ機能や教員の発音など、繰り返し音声聞こえてくる活動の中で、自然と発声をしたり発音をしたりする姿も見られるようになってきました。声に出すことに対して、抵抗感が少なくなったり、興味や関心が出てきたりした子どももいました。マルチメディアDAISY図書のハイライト機能に合わせて、ひらがなを一文字ずつ指さすことが自然とできるようになった子どももいました。単語の塊ではなく、文字としてひらがなを意識することにつながってきたようです。また、役に分かれての八百屋さんごっこ遊び的活

動を行う際に、「やおやのおじさん」や「女の子」の写真が映し出されることで、見通しをもって活動に取り組むことができたようでした。

八百屋というお店や、加工される前の野菜に対して、絵本などで見たり聞いたりしたことはあるものの、実際のお店や野菜をイメージすることがむずかしい子どもも多くいました。学校の近所にある八百屋へ実際に買い物に行ったり、見学をしたりするといった活動につなげていくこともできるのではないだろうかと感じました。本の世界と実際の世界をつなげていくことにマルチメディアDAISY図書を活用していくなど、今後の指導に生かしていきたいです。

おわりに

今回は、小学部3年生の「国語」の授業での活用実践例を紹介させていただきました。本校では、マルチメディアDAISY図書の導入をして2年目です。環境整備と共に、使用方法や活用法の紹介がまだ十分ではないと痛感しています。今後も引き続き積極的に取り組んでいき、活用の拡大を目指していきたいと思います。また、GIGAスクール構想による一人1台端末環境の充実に合わせて、さらなる活用方法を模索していきたいです。

さまざまな場面や実態に合わせて読

書形態が選択できることが必要と考えます。その選択肢の一つとして、マルチメディアDAISY図書が活用されていくことを期待しています。



水元特別支援学校のキャラクター。学校の校章「菖蒲」の妖精みずもちゃん(右)と、ポニーのポニタン(左)。

子どもたちは授業の一環としてポニー教室「ポニースクールかつしか」で乗馬を体験している。

